授業科目名：生徒・進路指導論（初等）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2　単位	担当教員名：大隅心平（おおすみしんぺい） 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）	小学校教諭としての勤務経験をもつ教員が、生徒指導・進路指導の基礎理論及び問題事例の対応について指導する。		
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法/進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。

B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。

C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。

D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。

E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。

F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）

生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理、基礎的な指導方法について理解し、児童の望ましい自己形成を図るため組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能を身に付ける。

（到達目標）

（１）生徒指導・進路指導、キャリア教育の意義と原理

１）教育課程における生徒指導の位置づけ及び進路指導・キャリア教育の位置づけを理解している。

２）各教科・道徳・特別活動における生徒指導及び進路指導、キャリア教育の意義や重要性を理解している。

３）集団指導・個別指導の方法原理を理解している。

４）生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方を理解している。

（２）指導方法
１）学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。
２）基礎的な生活習慣の確立、規範意識の醸成等日々の生徒指導の在り方を理解している。
３）児童の自己存在感が育まれるような場や機会の設定を例示することができる。

（３）個別の課題を抱える児童への指導
１）いじめ、不登校等生徒指導上の課題の定義及び対応の視点及び養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との連携の在り方を理解している。
２）校則、懲戒等生徒指導に係る主な法の内容を理解している。
３）インターネットや性に関する課題、児童虐待等今日的な生徒指導上の課題について、専門家や関係機関との連携のあり方を例示することができる。

授業の概要
生徒指導及び進路指導の基本を学び、生徒指導の今日的な課題を理解して一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図るとともに社会的な資質や行動力を高めることができるよう、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めるために必要な知識・技術を身に付ける。

授業計画
第１回：授業の目標と計画。生徒指導提要の改訂及び生徒指導の意義と役割。
第２回：各教科、道徳教育、総合的な学習の時間及び特別活動における生徒指導
第３回：生徒指導及びキャリア教育の目標と児童理解
第４回：生徒指導における集団指導と個別指導
第５回：生徒指導上の諸問題と対応(1)－いじめ-
第６回：生徒指導上の諸問題と対応(2)－不登校-
第７回：生徒指導上の諸問題と対応(3)-非行・問題行動-
第８回：学級担任が行う生徒指導と生徒指導体制
第９回：生徒指導における基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成
第１０回：生徒指導と関係法令（校則、懲戒、体罰等）
第１１回：現代社会と生徒指導の課題（インターネット、ＳＮＳ等、児童虐待等）
第１２回：キャリア教育と個性の伸長
第１３回：キャリア教育と将来計画、進路の選択
第１４回：生徒指導とキャリア・カウンセリング
第１５回：関係諸機関との連携・協力
定期試験

スクーリングでの学修内容
　生徒指導の概要、意義や内容、指導法について学ぶとともに、グループワークにおける事例分析を通して効果的な指導法について考える。事例はスクーリングで示す。（主に第４回～第７回の内容を含む）

教科書
（１）文部科学省「生徒指導提要」２０２２年改訂版
『生徒指導提要(改訂版)』はデジタルテキストが公開されています。必要に応じて『生徒指導提要(改訂版）利用ガイド』を参照してください。いずれも下記アドレスからダウンロードで

きます（2022 年 12 月現在）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm

参考文献

（1）『生徒指導を理解する～生徒指導提要入門～』（滝充「小学校からの生徒指導 ～『生徒指導提要』を読み進めるために～」 『国立教育政策研究所紀要』第 140 集(平成 23 年 3 月)より抜粋）（https://www.nier.go.jp/a000110/kiyou140p.pdf）
（２）滝 充『理論的分析枠組みとしての「生徒指導モデル」の有効性の検討』国立教育政策研究所紀要第 135 集平成 18 年（http://www.nier.go.jp/a000110/kiyou135-109.pd
（３）文部科学省『小学校キャリア教育の手引き（改訂版)』第 3 章
（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm）
（４）国立教育政策研究所「生徒指導リーフシリーズ」
（http://www.nier.go.jp/shido/leaf/）
（５）徳久治彦編著『新しい時代の生徒指導を展望する』学事出版 2019

学生に対する評価

レポート評価（２５％)、スクーリング評価（２５％)、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。